

導入事例
てれたっち

「楽しい!」「わかる!」「先生ありがとう!」と子どもたちからうれしい感想が。「てれたっち」の授業では、全員が積極的になって、クラスがひとつに。



和歌山県の橋本市立柱本小学校は、「てれたっち」を活用し、児童の積極性を引き出すことに成功しています。同校でICT活用を進めるのは、民間でのご経験の後に教員として赴任された西浦健悟先生。創意工夫を凝らした授業を通じて、21世紀にはばたく人材育成に注力されています。「てれたっち」の具体的な使い方や学習効果についてお伺いしました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

消極的な児童も手を上げる、「隠す」機能を使ったクイズ形式の授業

「てれたっち」を使った授業の流れを教えてください。理科では電磁石を使った実験をされていましたね。

西浦先生: 授業の始めに復習として「てれたっち」を使うことが多いですね。プレゼンテーションソフトで前回の授業のまとめを見せています。電磁石の実験では、「てれたっち」付属の白板ソフトを使って、電流計、スイッチ、電池など、実験に使う道具のイラストを表示し、正しい接続方法などを具体的に教えます。児童にはタッチペンで正しいつなぎ方を記入させました。また、要所でポイントとなるキーワードを隠し、クイズ形式にして児童に答えさせています。応用ではプリントを「てれたっち」に取り込んで活用していますが、「隠す」機能で正解を伏せた状態にしています。クイズ形式にすることで皆が積極的になり、参加型の一体感ある授業が実現します。



電磁石の実験は白板ソフトを活用



タッチペンで正しいつなぎ方を記入

時間効率がアップし、準備の時間も削減。授業にゆとりが生まれました

時間効率を上げるという面でも、「てれたっち」は役にたっているのでしょうか。効果がありましたら教えてください。

西浦先生: 準備時間や待ち時間が削減されて、学習のために使える時間が多くなりました。特に、授業の冒頭で行う振り返りの部分は、「てれたっち」で私が作ったまとめをパッと画面に表示してあげるだけ。以前はここでも板書をしていましたが、児童にとってはすでに前回ノートをとっている内容ですし、労力を削減したい箇所でもありました。準備の面でも、以前は教材として大判コピーなども使ってきましたが、これには非常に手間がかかり、なんとかしたいところでした。紙だと資源の無駄遣いにも気になりますよね。電子化された資料は、すぐに表示できて再利用でき、プリントして配布物として転用するのも簡単です。様々な面で利便性を感じています。

工夫して授業をしているのが伝わるようで、児童たちから感謝の言葉も

以前の環境と比べるといかがでしょうか。

西浦先生: 従来、大型ディスプレイは各教室に据え置き設置されていましたが、操作はディスプレイ下部に設置したノートパソコンから行っていました。しゃがみ込まないと入力できず、児童の気がそがれてしまうことが課題でした。ディスプレイとパソコンの組み合わせでは、ただ画面を見ることしかできませんでしたので、口頭での説明で補っていました。児童の反応は「てれたっち」導入後のほうが断然よいですね。タッチペンを見せて「前に出て書いてみよう!」と促せば、ほぼ全員の手が上がります。普段はまるで手を上げない引っ込み思案な児童も積極的になってくれるのは、本当にうれしいことです。



参加型の一体感ある授業に

児童の皆さんからは、「わかりやすい!」という反応が多いそうですね。

西浦先生: 私が工夫して取り組んでいるのがわかるようで、感謝の気持ちを伝えてきたりもするんですよ。授業後も「てれたっち」に触りたいという児童は多いです。ディスプレイ画面に字を書いたり、絵を描いたりすることは新鮮に感じるようです。子どもというものは本来、体を動かしたり手を動かしたりするのが好きですから、板書されたものをノートに書き写すよりも、魅力的なのでしょう。せっかく「てれたっち」のようなツールがあるので、今後はプレゼンスキルを高める指導をしたいとも考えています。将来のプログラミング教育の開始も見据えると、子どもたちも新しいICT機器に触れておくのは大切なこと。「てれたっち」には様々な可能性を感じています。

取材にご協力いただいた先生



橋本市立柱本小学校
西浦 健悟 先生

CLIENT DATA



導入学校 / 橋本市立柱本小学校
所在地 / 和歌山県橋本市
設立 / 1906年